

## 第6回「生物多様性日本アワード」公募について

公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田卓也 イオン株式会社名誉会長相談役）は、第6回「生物多様性日本アワード」（以下、本アワード）の公募を実施しています。

本アワードは、2010年に名古屋市で開催された「生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）」に先立ち、環境省との共催で2009年に創設したものです。日本国内の団体・組織・企業・個人を対象に「生物多様性の保全と持続可能な利用に関する取り組み」を広く公募し、優秀な事例を顕彰しています。これまでの授賞団体は28団体にのびります。

なお当財団は、日本国内の団体等を顕彰する本アワードに加え、財団設立20周年となる2010年に、国際賞「The MIDORI Prize for Biodiversity（生物多様性みどり賞）」を創設しました。本アワードと国際賞を交互に実施し、毎年継続して顕彰を行うことで、生物多様性保全に資する取り組みをより多くの方々を知っていただき、COP10で採択された「愛知ターゲット」や2011年にスタートした「国連生物多様性の10年」の活動を支援しています。

当財団は、いのちあふれる美しい地球を次代に引き継ぐため、こうした顕彰活動や植樹活動などのさまざまな活動に積極的に取り組んでまいります。

### 【公募概要】

公募締切：5月20日（月）

応募資格：日本国内の団体・組織・企業・個人  
（複数の団体・組織による共同の取り組みを含む）

対象活動：生物多様性の保全、生物多様性の持続可能な利用、生物多様性の普及・啓発

主催：公益財団法人イオン環境財団

後援：環境省、国連生物多様性の10年日本委員会

顕彰内容：グランプリ1件（副賞200万円）

優秀賞4件（副賞100万円）

※詳細は、当財団ホームページ内の生物多様性日本アワード応募方法をご参照ください。

<https://www.aeon.info/ef/prize/award/about.html>

### 【授賞式・受賞者フォーラム（予定）】

日時：9月26日（木）14：00～17：00

場所：国際連合大学 ウ・タント国際会議場

### 【本件に関するお問合せ先】

公益財団法人イオン環境財団 板谷 電話：043-212-6022

ご参考

第6回「生物多様性日本アワード」審査委員（五十音順）

委員長	岡田 卓也	公益財団法人イオン環境財団 理事長
委員	赤池 学	ユニバーサルデザイン総合研究所 所長
委員	岩槻 邦男	公益財団法人イオン環境財団 理事 東京大学 名誉教授
委員	鬼頭 秀一	東京大学 名誉教授 星槎大学 副学長
委員	黒田 大三郎	公益財団法人地球環境戦略研究機関 シニアフェロー
委員	香坂 玲	名古屋大学大学院環境学研究科 教授
委員	南川 秀樹	公益財団法人イオン環境財団 理事 環境省 元事務次官

歴代受賞プロジェクト一覧（優秀賞の順序は団体名の五十音順）

回／年度		団体名	受賞プロジェクト名	活動地域	団体所在地
第1回 2009年	グランプリ	NPO法人アサザ基金／白菊酒造株式会社 ／株式会社 田中酒造店	利用フィールド部門：地域企業との協働による谷津田の保全	茨城県	茨城県他
	優秀賞	財団法人 知床財団	保全フィールド部門：知床の生物多様性に関する取組	北海道	北海道
		NPO法人 農と自然の研究所	保全リサーチ部門：「農」に着目した地域における生物多様性の保全のための活動	福岡県	福岡県
		鹿島建設株式会社	利用リサーチ部門： エコロジカルネットワークの研究と実践	首都圏 全国	東京都
		コウノトリ育むお米生産部会／JAたじま／NPO コウノトリ湿地ネット／豊岡市／兵庫県豊岡 農業改良普及センター	保全プロダクト部門：「コウノトリ育む 農法」とコウノトリ共生米	兵庫県	兵庫県
		積水ハウス株式会社	利用プロダクト部門：生物多様性保全を 含む10の調達指針	全国	東京都
		中日信用金庫	保全コミュニケーション部門：「生物多様 性について考えてみませんか」定期的取り 扱い	愛知県	愛知県
		サラヤ株式会社	利用コミュニケーション部門：「ボルネオ はあなたが守る！」キャンペーン	マレーシア 全国	大阪府
第2回 2011年	グランプリ	日本雁を保護する会	湿地環境の指標種としてのガン類の保護お よびその生息環境の保全・復元と人間の 共生をめざす活動	宮城県	宮城県
	優秀賞	有限会社 熊谷産業	茅場の保全から茅葺屋根まで－ヨシ原と共 に生きる－	宮城県	宮城県
		NPO法人 ピッキオ	クマ保護管理事業	長野県	長野県
		NPO法人 多摩源流こすげ	山梨県小菅村における多摩川源流大学を 中心とした源流域の自然保全活動と教育 活動	山梨県	山梨県
		株式会社 野田自然共生ファーム	野田自然共生ファーム	千葉県	千葉県
第3回 2013年	グランプリ	特定非営利活動法人 田んぼ	津波に被災した田んぼの生態系復元力に よる復興	宮城県 岩手県	宮城県
	優秀賞	味の素株式会社	太平洋沿岸カツオ標識放流共同調査と一連 の協働・普及啓発活動	西日本太平 洋沿岸地域	東京都
		中越パルプ工業株式会社	「竹紙（たけがみ）」の取り組み	九州等	東京都 富山県
		てるのはの森の会	綾の照葉樹林プロジェクト	宮崎県	宮崎県
		ネイチャー・テクノロジー研究会 （東北大学大学院環境科学研究科）	ネイチャー・テクノロジー創出のシステム 構築	全国	宮城県

第4回 2015年	グランプリ	一般社団法人エゾシカ協会	エゾシカの先進的な資源的活用促進事業	北海道	北海道
	優秀賞	株式会社伊藤園	「お茶で琵琶湖を美しく・お茶で日本を美しく」プロジェクトを通じた生物多様性保全の取り組み	滋賀県 全国	東京都
		九州の川の応援団／九州大学鳥谷研究室	水辺環境の保全・再生の実践と地域活性化	福岡県 韓国等	福岡県
		NPO法人グラウンドワーク三島	市民力を結集してドブ川を多様な生き物がすむ「ふるさとの川」に再生・復活	静岡県	静岡県
		気仙沼市立大谷中学校	大谷ハチドリ計画 (Ohya Hummingbird Project)	宮城県	宮城県
第5回 2017年	グランプリ	NPO法人 黒潮実感センター	「高知県西南端柏島・島が丸ごと博物館(ミュージアム)」持続可能な里海づくり	高知県	高知県
	優秀賞	宮城県漁業協同組合	国際養殖認証の取得を通じた持続可能で高品質なマガキの養殖生産	宮城県	宮城県
		一般社団法人企業と生物多様性イニシアティブ (JBI B)	企業における生物多様性主流化のためのツールやガイドラインの開発	東京都	東京都
		トンボはドコまで飛ぶかフォーラム	トンボはドコまで飛ぶかプロジェクト	神奈川県	神奈川県
		学校法人山陽学園 山陽女子中学校・高等学校地歴部	瀬戸内海の海底ごみ問題の解決に向けての女子中高生の挑戦	岡山県	岡山県

## 歴代グランプリ受賞団体の取り組み

### 第1回 (2009年) 「地域企業との協働による谷津田の保全」

NPO法人アサザ基金／白菊酒造株式会社／株式会社田中酒造店

茨城県にある湖沼「霞ヶ浦」の水質悪化により絶滅に瀕していた浮葉性植物である「アサザ」を再生するため、1995年より流域の学校、住民、農林水産業、企業、行政等が連携して実施する市民型公共事業「アサザプロジェクト」を開始しました。湖各地での自然再生や里山の保全、外来魚駆除事業、バイオマス事業などで持続可能な循環型社会の構築に取り組み、100年後にトキの舞う湖をめざしています。



### 第2回 (2011年) 「湿地環境の指標種としての雁類の保護および

その生息環境の保全・復元と人間との共生を目指す活動」

日本雁を保護する会

雁類の渡り経路を国際調査で解明し、国内生息地での調査結果を「ガン類渡来地目録」等にまとめ、保全・啓発・提言活動を実施しています。近年はその生息地である水田に注目し、雁類の生息地復元と水田の生物多様性を活かし、農業との共生をめざす「ふゆみずたんぼ」の提唱・普及に取り組んでいます。水田の湿地機能への関心を高める「かぶくりぬま 蕪栗沼・周辺水田」のラムサール条約湿地登録、ラムサールCOP10およびCBD・COP10での「水田の生物多様性に関わる決議」実現に貢献しました。



### 第3回（2013年）「津波に被災した田んぼの生態系復元力による復興」

NPO法人田んぼ

宮城県気仙沼をはじめ、塩竈、南三陸、岩手県陸前高田を中心に生態系の復元力を活用した自然農法のシステム（ふゆみずたんぼ）で津波被災地の田んぼの復興を実現しました。1,200名を超える多様なボランティアの参加により、手作業で田んぼの復興を試み、抑塩にも成功しています。また各地で、生物多様性、水質、土壌内の微生物の活性度調査などの科学的なモニタリング実施により現況を把握し、その結果、被災した年の秋から豊かな収穫を楽しむことができました。



### 第4回（2015年）「エゾシカの先進的な資源的活用促進事業」

一般社団法人エゾシカ協会

北海道においてエゾシカの適正な個体数管理が強く求められる中、シカ肉を適正に利用し、森林保全に還元する仕組みを作るため、2007年に厳しい衛生基準をクリアしている解体処理場の製品の認証制度を創設しました。2012年からは認証処理場で処理された肉の加工食品の認証制度をスタート。2015年からは肉の検査者となるシカ捕獲者の認証制度創設にも取り組んでいます。安全・安心なシカ肉の流通により、森とエゾシカと人との適正な関係を築き、シカ肉の資源的価値の向上に貢献しました。



### 第5回（2017年）「高知県西南端柏島・島が丸ごと博物館（ミュージアム）」

持続可能な里海づくり

NPO法人 黒潮実感センター

温帯域にありながら熱帯・亜熱帯域を凌ぐほどの生物多様性の宝庫である高知県柏島。暖流黒潮の影響を強く受ける周辺海域は造礁サンゴや藻場が広がり、生息する魚種は国内最多の1,000種を超えている。このプロジェクトは、高知県西南端にある柏島において豊かな自然と、そこに住む人のくらしとを「島がまるごと博物館（ミュージアム）」と捉え海と人とが育みあう持続可能な里海モデルの創出を目指す活動である。多様なステークホルダーが漁業や観光の視点から生物多様性に取り組み、保全と利活用の両立を実現している。

